

冬に向けて子牛の疾病対策を始めましょう

【はじめに】

11月に入り、朝夕の時間帯はぐっと冷え込むようになってきました。

肉用牛は比較的寒さには強いですが、子牛は成牛に比べて、体温を維持することが難しく、寒冷対策が重要です。

哺育期の下痢や呼吸器病への罹患は発育遅延につながり、経営に大きなダメージとなるので、十分な対策をとって予防しましょう。

【気を付けるポイント】

(1) すき間風対策・定期的な換気

すき間風は、子牛にとって大敵です。板やビニールシート等を活用して、風が子牛に直接当たらないようにしましょう。また、牛舎内にハッチを設置したり、天井を低くしたりすることで子牛を飼養する空間を狭くし、熱を逃がさないようにすることも効果があります。ただし、換気を怠ると、アンモニアガスやほこりによる呼吸器病を誘発するため、暖かい時間帯に効率よく換気しましょう。

詳しくは岩手県肉用牛飼養衛生管理マニュアルをご参照ください

(2) 乾燥した敷料

冷たく濡れた床や敷料は、子牛の体温を奪い下痢の原因になります。清潔で乾いた寝床を常に維持するために、寝床を中心に敷料はたっぷりと敷き、交換は早めに行いましょう。

(3) カーフジャケット等による保温

牛にカーフジャケット（右写真）等を着せることも効果的です。



(4) ワクチンによる免疫強化

農場でよくみられる子牛の下痢・呼吸器病としては、下痢ではコクシジウム、牛ロタウイルス病が多く1年を通して多発し、牛コロナウイルス、大腸菌、クリプトスポリジウムなどとの混合感染により、症状を悪化させる事例が散見され、呼吸器病では主に、牛RSウイルス病や牛コロナウイルス病が11～4月に集中して発生します。飼養環境の改善に加えて、呼吸器病ワクチンの接種を検討する場合は、ワクチンの特徴（下表）を踏まえる他、BVD対策も考慮して管理獣医師と相談し、適切なプログラムで接種しましょう。

各地域の家畜衛生協議会が扱う牛の呼吸器病ワクチン（一部抜粋）

	生ワクチン	不活化ワクチン
種類	5種混合生ワクチン、カーフウィン6	ボビバックB5、キャトルウィン6
長所	1回接種で有効、免疫持続期間長い	妊娠牛に使用可能、移行抗体の影響少ない
短所	妊娠牛に使用不可、移行抗体で失活	初年度は2回接種、免疫持続期間短い

毎月1日は、「消毒・点検の日」

～病気の侵入を防ぐためには、
地域全体の取組が効果的です！～



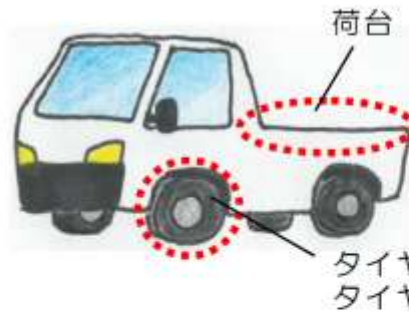
定期的に、一斉消毒を行うとともに、日頃の消毒方法や実施状況を確認して、家畜の伝染病の侵入を防ぎましょう。

消毒を徹底しましょう！



いつもの消毒の方法は適切ですか？

- 入場車両の消毒は？
- 消毒前の洗浄（汚れの徹底除去）は？
- 消毒液の時期、回数、濃度は？



「やっかつもり」をなくしましょう！

- 長靴の裏に、汚れはついていませんか？
- 踏込消毒槽が汚れた水槽になっていませんか？
- いつ、だれが消毒したか記録はありますか？



お互いに、作業内容を確認して、「やっかつもり」をなくしましょう！

岩手県中央家畜保健衛生所
岩手県県南家畜保健衛生所
岩手県県北家畜保健衛生所

Tel:019-688-4111
Tel:0197-23-3531
Tel:0195-49-3006